アーカイブ新聞　（2014 年 6 月 26 日　第 737 号）

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員　中桐正夫

＊すばる室から古い道具など 12 点を収蔵

すばる室は、筆者にとっては古巣である。すばる室と名乗り始めたのはハワイに建設した口径 8.2m の大型光学赤外線望遠鏡を「すばる」と名付けた後のことだ。「すばる」の名称が決まったのは 1991 年 8 月 19 日の名称選考委員会であった。このことについては「大型望遠鏡新聞」No.22 に記事が載っている。その「すばる室」は、光学赤外線天文学研究系という研究系の事務組織を引き継いだ形になっているから、古いものを引き継いでいる。これまでにも何度か古いものの処分が行われてきたが、今回の処分に当たっては、捨てる前に中桐に見てもらってできれば国立天文台博物館に所蔵をと思ったようだ。国立天文台博物館構想は、天文情報センター・ミュージアム検討室に引き継がれているが、すばる室の古いことを知っている筆者に話が持ちかけられた。今回、筆者が引き取ったものは以下のとおりである。

１）簡易スライド投影機
２）キャノンカメラ EOS100QD　TAMRON28-200mm レンズ付き
３）ニコン接写セット
４）TAMRON FOTOVIX　フォトビックスⅡ-X
５）200 ㎜ガラススケール
６）ガラススケール断片
７）円弧の一部のガラススケール片
８）名刺サイズガラススケール片
９）200mm ガラススケール（ガラスが薄く、幅広）
１０）　ロットリングテンプレート 4 本
１１）　内田製図定規セット
１２）　KENT レタリングセット

であった。これらの内、筆者もよく知らないものは１）簡易スライド投影機、これは金属製の箱の表面にすりガラスがついており、これを斜めに開いて投影する器具である。４）TAMRON FOTOVIX は、いろいろなものを投影でき器具のようだが、よく見てみないとわからない。また、これらの内、筆者が仕事で長い間愛用したものは、３）ニコン接写セット、１２)KENT レタリングセットである。研究室の技術系職員の仕事多くは、これらの器具を使って先生の論文の作成を手伝ったのである。ニコンの接写セットは観測のための星野チャート作成のためにパロマ―の写真星図から、岡山天体物理観測所の 188 ㎝望遠鏡の視野に合わせた星野チャートを作るのに大活躍した。今は亡き、壽岳さんのチャート作成では徹夜で頑張ったこともあった。写真 1 がニコンの接写セットである。

写真１　ニコンの接写セット

次によく使ったものは１２）の KENT レタリングセット(写真 2)である。これは論文に掲載する図面作成に威力を発揮したものである。図に文字入れをするために用いた。今ではパソコンのソフトにいいものがありこのようなものは使われることはない。今昔の感が強い。

写真２　レタリングセット

他のものについては、紹介記事を書くこともあろう。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp